

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿 2月14日（金）放送分

テーマ「奄美先人の知恵」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様，おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今週は，毎月第2週に，奄美の文化・暮らしにおける先人の工夫などを紹介する「奄美先人の知恵」の11回目です。

2月18日は，大島地区「方言の日」です。この日は，大島地区文化協会連絡協議会（大島支庁総務企画課）が，近年，衰退しつつある奄美方言を保存・伝承していくことを目的として，平成19年度に「方言の日」と決めました。奄美方言が未来へと受け継がれていくように，各市町村文化協会及び教育委員会の取組を支援しながら事業を推進しています。

なぜ，2月18日を「方言の日」と定めたかということ，与論の方言で「言葉」を表す「フトゥバ」の語呂合わせです。「フ」を数字の「2（に）」、「トゥ」を「10（じゅう）」、「バ」を「8（はち）」と読み替えているのです。

ということで，この「方言の日」の名称も島で異なっています。奄美大島では，「シマユムタの日」「シマクトゥバの日」^{しまぐち}「島口の日」，喜界島では「シマユミタの日」，徳之島では「シマグチの日」「シマユミタの日」，沖永良部島では「島ムニの日」と言います。

奄美の方言については，多くの方が研究をしています。その著書の中から，いくつか紹介しましょう。

奄美の民俗研究家として知られている^{えばらよしもり}恵原義盛氏は，1975年（昭和50年），70歳の頃から，南海日日新聞に「奄美方言さんぼ」と題して，奄美の方言を一語ずつ掲載しました。そして，1987年（昭和62年）に『奄美方言さんぼ』『奄美方言さんぼ』として，本にまとめました。

『奄美方言さんぼ』の最初に紹介している言葉は，「ナーユムタ」です。それには，「古老達が日常さりげなく使って言えることばに，時折はっとさせられるものがあります。私達が忘れていたシマコトバで，とても面白いもの，あるいは昔の奄美の人の精神的高さを示すものがあることを知るからです。

この古老達が居なくなれば，これらのシマコトバは消えるかも知れず，それば奄美の貴重な文化財を失うことになるわけです。それで今のうちにこれを記録しておく必要を痛感し，忘れていたことばを耳にする都度ノートしているので参考に供したく，この欄を設けて貰うことにしました。

ユムタはユムとウタであり，ユムは読むで，ウタは詩で，国語にも言霊^{ことだま}ということばがある通り，ユムタには霊力^{れいりよく}が宿るとされます。それは己の魂^{おのれ}の発露^{はつろ}であるからです。ナーは空しい^{むなしい}，要らぬことであり，要するに無駄口^{むだぐち}ということで，要らぬおしゃべりは神に咎められることになるわけです。これからずっとつづけるこの拙文^{せつぶん}がナーユムタにならぬことを祈り，最初に取り上げた所以。」とあります。

惠原氏は、この本の「あとがき」の中で、「興味深いことばの語源や正しい解釈を考えて貰いたく、また、奄美方言の美しさを味わって頂きたく」掲載を始めたこと、「奄美の方言に奄美の心が生かされており、それは古代日本の心であり、それは『キョラ』であると信じている」こと、「人間は言葉を持つことが他の動物との差異であり、言葉が文化の根源である」と記しています。

また、岡村隆博^{おかむらたかひろ}氏の著書『奄美方言』では、「ありがとう」という言葉について、次のように説明されています。

喜界の「ウーガン」は「拝み」という言葉からで、「礼をします」「頭を下げます」という意味となり、心底から感謝の気持ちを表しています。徳之島の「オポーラ」は、「重たかろう」という言葉からで、昔、人から感謝をされるのは力仕事の時であったからです。「重たかろう」と共感し、感謝をこめて労をねぎらったのが、この「オポーラ」という言葉になったのです。そして、与論の「トートガナシ」は、「尊い」という言葉と「^{さま}様」という意味の「ガナシ」を重ね、尊いお方であると尊敬していることを表しています。

それぞれの島で意味も言葉も異なりますが、一つのあいさつ言葉でさえ、奄美の人々が相手を敬い、気持ちをこめて言葉を使っていたことが伝わってきます。

岡村氏は、著書が再版される際に、「島々の方言があるから島（奄美）の心があるのだ。（中略）人に国籍があるように言葉（方言）には故郷がある。方言は故郷と強く結び付き、地域の人々の心を育む。この消え行く懐かしい発音を支えて復活をさせたい。」と述べています。

惠原氏も岡村氏も、方言が使われなくなり、衰退していくことを危惧して、方言について調べ、記録を残しています。しかし、奄美の方言は、2009年（平成21年）にユネスコが発表した「ユネスコ世界危機言語地図」で、消滅の危機にある言葉として記載されました。

もう一度「方言の日」の意義を考え、先人たちが継承してきた奄美の方言の意味を知り、奄美の人々の心を感じてみませんか。そして、次の世代へ、美しい奄美の方言を伝え、奄美の文化について思いを深くしてみませんか。

以上、鹿児島県立奄美図書館でした。